

若い先生方へ

若い先生方に話をする機会がありました。とても熱心に耳を傾けていただき嬉しかったです。そのときのレジメを掲載します。「若い先生方へ その2」は追加の資料です。一部だけ話をさせていただきました。

若い先生方へ

1 魅力的で力のある教員に

- 若い間は、若いというだけで子どもたちがついてくる。しかし、いつまでも若いわけではない。
- 教師としての力量をつけていく。魅力的な人となるよう自分を磨く。
教員として力をつけたい4つの領域： 授業 学級経営 生徒理解 部活動運営(中学校)

2 授業

<主体的・対話的で深い学び>

1時間の授業の中でペアの活動、グループになっての活動をそれぞれ何回くらい行っているか。

ペアとグループの使い分け

授業は集団だが、分かるようになる、できるようになるのは個人（学びは個人である）

班になって個人で考える 班で考えるのではない

班で意見をまとめるのではない 班で個人の意見を交流するのはよい

分からなければ班の子に「ねえ、どうするの?」と聞く。聞かれたら必ず応える。

×「早くできた人は分からない人を教えてあげてください。」

教える人・教えられる人が固定される危険性がある。

教える人は上から目線になる危険性がある。

※全体交流では、教師は意見をつなぐ役を 言葉掛けは4種類のみ

・意見をつなげていくときは、「関連してどうですか。」「続けてどうですか。」

・意見が途切れたときは、「他にどうですか。」

・声が小さくて聞こえないときは、「聞こえましたか。」

・子どもの発言内容、発言意図が不明なときは、

「先生にはよく分からないので、誰か助けて。」

誰か言い換えて 誰か説明して

3 生徒理解

- 特別支援教育的な側面から理解できる力をつけること。
- 各クラスに特別な支援が必要な子どもがいるという認識で
同様に、各クラスに特別な支援が必要な家庭があるという認識で

4 子どもが言うことを聞かないとき

- 子どもが言うことを聞かないとき、子どもが悪い、家庭が悪い、社会が悪いと言っているても何も変わらない。
- 指導が悪いというのではなく、指導が子どもに合わないと考える。
→ 子どもを理解して、指導方法を変える。

5 ピンチはチャンス

- 一人で抱え込まない。組織として対応する。まずは、言いやすい同僚につぶやく。
- ピンチはチャンス
子どもが悪いことをした。指導をするチャンスである。
苦情をもらった。誠実に対応し解決すれば、信頼が得られる。
苦情をもらった。気づかなかったことを教えてもらった。次に活かす。

6 チャレンジ精神で 飽くなき向上心を

- 説明責任の時代である。教育実践も説明責任が求められる。

- 言い換えれば、言葉は荒いが、「説明できれば何でもできる」ということ。
- 関係者(子ども、保護者、同僚、管理職、教育委員会など)のほとんどが納得できれば、自分の思うように教育実践ができる。
- これまでのやり方、これまでの内容、これまでの枠にとらわれることなく、子どもも教師もワクワク・ドキドキする教育実践を期待したい。
- チャレンジ精神で取り組みたい。飽くなき向上心を持ち続けたい。

若い先生方へ その2

1 危機対応

(1) 危機の例

苦情

保護者:成績に納得がいかない。授業が成立していない。授業が分からないのに進めていく。教科書を最後まで終わりそうにない。叱り方:私の子が悪いが、そんな叱り方はないだろう。…

地域住民:自転車の乗り方が悪い。…)

子ども同士のトラブル / いじめ / 差別発言 / 体罰

地震/津波/大雨/洪水/火災 安全第一、安全確保

不審者/アナフィラキシー(食べ物、運動誘発性、ハチ)

新型コロナウイルス対応 : 授業中、学校生活 マスク、手洗い、ソーシャルディスタンス

熱中症 新型コロナウイルス対策と熱中症対策

スマホの学校への持ち込み / 繰り返される同じ保護者からのクレーム

個人情報の取り扱い/流出

(2) 危機対応

・現状把握、事実確認

聞き取り:一人ひとり別室で、個別に聞き取り

何があったか事実のみを聞き取る。そのとき、指導は行わない。

聞き取りの突き合わせ:突き合わせで合っていないところ、不明なところを再度聞き取る。

聞き取った内容が一致するまで聞く。

すぐに現場に出かける

・組織的対応

まずは同僚の先生につぶやく

報告、連絡、相談(報連相) / 学年主任・生指主任・管理職

・安全確保

・問題解決の方策

・生徒への指導

何が悪かったかを明確にする / 謝罪すべきことは謝罪の方向で

当事者同士で話し合いをする場合や、子どもから子どもへの謝罪は

教師立ち会いの下で行う

保護者から保護者へ、保護者から地域住民への謝罪は保護者の判断で

(教師からの助言が必要な場合もある)

・保護者への連絡 電話、家庭訪問 迷ったら家庭訪問

保護者が自分の子どもから聞いた内容と、学校から知らされた内容とにズレがないこと

・関係者への連絡

・再発防止(再発防止策を組織として検討する)

・学校説明会(事案の経過説明、事案解決の説明、再発防止策の周知、協力の呼びかけ)

2 授業

○主体的・対話的で深い学び

ペアとグループの使い分け

授業は集団、学習は個人 分かるようになる、できるようになるのは個人

○道徳

授業:資料の読み取り

資料の読み取りから、本時のねらいである道徳的価値について考える。

自分の生活の振り返りから、本時のねらいである道徳的価値について考える。

資料の読み取りでは発問2つ、生活の振り返りでは発問1つ。

評価:自己理解、他者理解、価値理解、人間理解、読み物教材における自分とのかかわり

気づくことができるようになりました。／考えることができるようになりました。

見つめることができるようになりました。

“一時間の中で”ではなく“期間を通して”

連絡表にはエピソードを入れるとよい。

○総合的な学習の時間

自ら課題を見つける。課題解決に取り組む。

課題解決に取り組む中で、これからの生き方について考える。

まとめの中で、これからの生き方について表現する。

3 いじめ・

本人・保護者がいじめと言え、いじめとして対応を始める。

いじめの定義 / いじめはあって当然という認識で

いじめが‘あったか’‘なかったか’より、‘いじめかも’と認識したときの対応が重要

いじめが解決したかの判断 本人の気持ち、周りの人が見て、加害者の認識

いじめであっても、被害者本人が否定することもある。

いじめであっても、加害者が認識していないときがある。

菌つけ遊び(ばい菌ごっこ)はいじめである。直ちに止めさせる。いじめであることを教える。

4 差別

○様々な差別

部落差別、障害者差別、外国人差別、LGBT、アイヌの人、…

○差別の三重構造 差別を受けている人、差別をしている人、傍観者・無関心者

○差別をしない子、させない子、差別に気づける子を育てる

○正しいことを知ることが重要

○差別の現実に深く学ぶ : 被差別の人からの聞き取りを

○部落差別 部落差別とは何か / 具体的にどんな事象があるのか

○差別解消法3法 部落差別解消法 / 障害者差別解消法 / ヘイトスピーチ解消法

5 その他

○情報リテラシー

SNSとの付き合い方 / 個人が特定できるような文字や画像をアップしない。

簡単にコピーできる 端末で消しても、すべては消えない 拡散する

悪意のある人が見ているかも

情報はすべて正しいとは限らない 思い込みの強い情報 悪意のある情報

○思春期の子どもへの言葉がけ 1メッセージで

正しいことをしているとき 嬉しい、ありがとう

間違ったことをしているとき どういうこと? かなしい (あなたらしくない)

○キャリア教育

①お金を稼いで食べていく ②仕事として好きなことができる

③その仕事で人に喜んでもらっている、その仕事が人の役に立っている

責任感を育てる 達成感を味わわせる

コミュニケーション力(あいさつ、言葉遣い、相手のことを考えながら聴く)

- パワハラ・セクハラ 教師と上司、教師と教師、教師と子ども、教師と保護者
- 体罰／アンガーマネジメント / ○説明責任 / ○一人で抱え込まない
- 最近の教育問題 ○過去の問題